

第29回 〈ケア〉を考える会-岡山

■日時 **2016年12月17日(土) 14:00~16:30**

■会場 **川崎医療福祉大学 本館6階6001演習室**

http://www.kawasaki-m.ac.jp/mw/access/index.php/*

※建物の1階(防災センター)から備え付けのスリッパに履き替えてお上がり下さい。
駐車場は、福祉大学の職員・学生駐車場(病院とは道をはさんで北側)が利用できます(1時間100円)。

■会費：無料。どなたでも参加できます。本を読んでなくても(持ってなくても)気兼ねなく参加できます。



■内容：読書会 『ケアの宛先』

(驚田清一・徳永進 著/雲母書房)

この会で、昨年11月から今年の7月まで6回にわたって読んだのが『ケアの宛先』です。〈ケア〉を考えると、〈ケア〉に戸惑ったときや〈ケア〉が分からなくなったとき、そんなときにこの本はきっと役に立ちます。とはいえ、この本を読んだからといって問題が解決するとは限りませんし、〈ケア〉が分かるとは思えません。しかし、驚田さんや徳永さんの言葉は、なぜか、読む者の心をとらえて離しません。〈ケア〉について最も大切なことを説いているからです。〈ケア〉の「哲学」とでも言ってもいいものです。そうした言葉に、もう一度、触れて、呼び出して、噛みしめて、話し合えたらいいなと思うのです。(林)



■呼びかけ人

大賀由花(看護師)、
河合清志(社会福祉士)、
小林真美(看護師)、
清水昭雄(管理栄養士)、
田中順子(作業療法士)、
林道也(社会福祉士)、
平松邦夫(社会福祉士)、
松川絵里(臨床哲学者)

■参加申し込み・問い合わせ

884michiya@gmail.com 090-5366-1497(林)



「〈ケア〉を考える会-岡山」とは……

▼岡山(倉敷)で、〈ケア〉について学び考えています。

〈ケア〉といえば、「看護」「介護」「支援」「世話」などが頭に浮かびます。超高齢社会を生きる私たちにとって、切実な課題の一つです。そして、〈ケア〉は、もっと広く捉えることもできます。たとえば広井良典氏は、ケアを「人と人との間の『関係性』という意味に理解してみたい」と述べ、さらに、個人がコミュニティや自然などとつながっていくような方向でもケアを考えます。「『ケアの哲学』とでもいうようなものが必要」とも言っています。また、驚田清一氏は「臨床哲学」の重要テーマの一つに「ケア論」を置き、「ケア」の奥深さをさまざまに説いています。それに、「死生観」、「生」と「死」について、リビングウィル、終末期医療も、〈ケア〉を抜きには考えられません。

この会では、〈ケア〉について、身近なところから理念的なものまで、そして、狭い意味から広い意味まで、幅広く深く考えていきます。

▼この会の参加者は、医療・看護・介護・福祉・教育などの現場、または地域や家庭などで〈ケア〉に関わっている方、大学や学校で〈ケア〉の教育・研究に携わる方や学んでいる方、さらに、その他、〈ケア〉に関心や関係のある方などです。〈ケア〉に関わる人たちが学び交流することで、明日からの力を得る〈場〉となることを願います。この会は参加者の「つながり」を大切にします。

※ ホームページ ⇒ <http://okayama-care.jimdo.com/>